国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

日刊 動労千葉

86. 4. 30

No. 2228

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

激化する処分・職場規律・管理・恫喝

俺たちは不当な乗務停止には屈しない

仲間への信頼、組合の団結＝これで勝負だ。

当局は、この間「職員管理調書」「企業人教育」など、国鉄労働者を差別・分断する攻撃を矢継早に強めてきている。千葉局においても「千葉鉄改革だより」なるものを創刊し、それを職場に流しこみ労働者の差別・分断をいっそうひきおこし、労働者間に対立・競争をあおり、国鉄労働者の総マル生分子化を狙った攻撃としてかけられてきている。この間、カーテン・ネクタイなど、職場規律を口実に処分策動を強めている。この一連の攻撃の「本質」「狙い」をしっかりとらえ、総反撃に起たなければならない。

不当な乗務停止処分を許すな

四月二三日、総武本線、佐倉～千葉間において、乗務中の千葉運転区支部組合員の乗務員室に運転部長・課員が「乗務員室乗車証」も提示せず乗り込み「カーテンを開けろ」と勝手に開けてきた。乗務員は運転保安上の立場から当然にも抗議したのである。これに対し運転部長は、列車が千葉駅に着くや千葉運転区にかけつけ区長に当該乗務員の乗務停止処分を強行させたのである。

エスカレートする職場規律攻撃

当局は、カーテンについて「乗客サービス」とか様々なへ理屈をつけては処分をちらつかせ「上げろ」と強要してきた。

ある局では何んと「カーテンは全面開放せよ」とわざわざ運転作業内規をつくり直すなど異常なまでにエスカレートしている。また、名札についても恫喝・強制的に着用させ、全国運転職場で未着用なのは千葉・東京南局二局だけという。

先に国労が行ったワッペン闘争に参加した大分地本の五百人もの組合員が余剰人員職場へ配転させられた。

事態は、ここまできているのだ。処分をちらつかせ恫喝し屈服させる―それでも屈服しない者は処分をする。

屈服すればするほど、とどまることのない、まさにカサにかかった攻撃としてかけられてきており、屈服すれば許してやるなどというものではなく、本当に奴隷となれといっているのである。

恫喝に屈せず 一致団結し闘おう

局総務部より発行される「千葉局だより」の中では、「切迫した状況のなか、千葉局の現状を鑑みるに、鉄道事業を行ううえで、各般において遺憾ながら末だしの感が強く、職員の皆様の将来について憂うるところ多とするところである」と訳のわからない古式豊かな文を書き連ねた後「改革だよりは皆様が新事業体発足に向け取りのこされることのなきようホットかつ生の情報をよく読め」と労働者への恫喝を行ってきている。

〝過員〟を抱える千葉局に広域配転者を送りこんで不安をあおり、企業人教育と称して労働者間に差別・対立をひきおこすことを目的に発行される「改革だより」など、われわれには必要ないのだ。

われわれは「奴隷への道」をきっぱりと拒否する。

「職場規律」を口実とした攻撃に対しては従来どおりの取り組みを継続・強化し、二波の闘いをもってかちとった地平をさらに発展させていかねばならない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！